

ASIRU —アシル—

令和5年12月20日発行 第22号



釧路管内道徳教育の抜本的改善・充実に係るシンポジウム

11月28日（火）、釧路町立別保小学校において、本道の道徳教育に係る重点である「よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成」に向けた学校、家庭及び地域が連携した道徳教育の在り方についての理解を深めることを目的とした「釧路管内道徳教育の抜本的改善・充実に係るシンポジウム」を実施しました。

本号では、シンポジウムにおける公開授業や協議、講話等の様子について紹介します。

公開授業 第4学年 主題名「正直に明るいい心で」(A-2 正直、誠実) 授業者 横田 佑也 教諭

本シンポジウムでは、参加者やシンポジスト等が、共通の土台で「学校、家庭及び地域が連携した道徳教育の在り方」について考えを深めることができるよう、横田教諭に公開授業を行っていただきました。

横田教諭は、次の3点を大切に授業づくりを行いました。



- ①内容項目に係る児童の内面的資質（諸様相）の育ちを、授業者が適切に把握すること
- ②本時における人間理解、価値理解、他者理解などの道徳的諸価値を明確にすること
- ③児童が「考え、議論する」ことができるテーマを設定すること

本時では、横田教諭が内容項目に係る児童の内面的資質の育ちを適切に把握した上で、「正直であるためには、どうすればよいのか」をテーマとして設定し、「考え、議論する道徳科の授業」の実現に向けて、授業を行いました。

実際の授業では、教材の人物の行為等を通して、「正直であることは大切である」とわかっているのに、正直であることはとても難しいことだね」「自分はこれから～なことを大切に正直と向き合っていきたいな」など、**内容項目に係る道徳的価値と照らし合わせながら、今後の自己の生き方について考えを深める児童の姿**が見られました。



【公開授業における横田教諭と児童の様子】

シンポジウム 「家庭や地域と連携し、よりよく生きる基盤となる道徳性を育む道徳教育の在り方について」

公開授業後、「家庭や地域と連携し、よりよく生きる基盤となる道徳性を育む道徳教育の在り方について」をテーマとしたシンポジウムを行い、シンポジストの皆様（別添参照）には、学校、保護者、地域、それぞれの立場から、公開授業の感想や今後の道徳教育の在り方等について御発言いただきました。

具体的には、荒井様は、「家庭と学校の道徳教育に係る共通理解に向けて家庭や保護者ができる取組の具体」について、鈴木様は、「地域コーディネーターとして学校と地域をつなぐ役割の取組の具体」について、吉川教諭は、「家庭や地域とのつながりを意識した学校の教育活動の具体」についてなど、協議のテーマに沿って御自身の考えを述べていただきました。

シンポジウムのまとめでは、コーディネーターを務めていただいた星准教授から、「『よりよく生きる基盤となる道徳性を育む道徳教育』の充実に、家庭や地域との道徳教育に係る共通理解を図ることが、学校が、家庭や地域とのつながりを大切に教育活動を推進することが大切である」という貴重な御意見をいただきました。



【シンポジウムにおける協議の様子】

講話 「道徳科における指導と評価」 講師 東京学芸大学 准教授 浅部 航太 氏

浅部准教授から、「本時を支える問い（テーマ）の重要性」について、子どもが考えなくなる（考えるに値する）ような問いを設定することなど示唆をいただくとともに、中心的な発問を軸に発問を発展させる「重層的発問」を手立てとした「自己の生き方について考えを深める具体的な道徳科の指導」について説明いただきました。

参加者からは、「評価において大切な視点が具体的に示されており、今後の自身の道徳科の授業に生かしたい」などの感想が聞かれました。



【浅部准教授による講話の様子】

本シンポジウムを通して、「考え、議論する道徳科の授業」や「学校、家庭、地域が連携した教育活動」の重要性について、共通理解を図ることができました！

